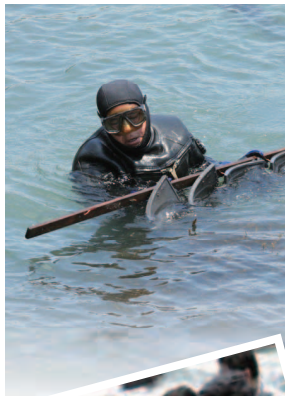


茨城大学による海底調査

6月6日、6月14日、6月20日、9月15日の全4回実施

六角堂の復興はまず、4回にわたる付近の海底調査から開始されました。

しかし引き上げられたのは瓦と宝珠の破片のみで、創建時をしのぶ柱、梁、桁の類いは発見できませんでした。ダイバーによると、六角堂の沖合は海底が砂地のため、潮の流れによって材木類は遠方まで流されたのだらうとの事でした。ただ宝珠については、その瓦の材質から創建時のものと推定されました。



3回目の海底調査では、六角堂直下の海中から小さな水晶（六角柱）が発見されました。

この海底調査で、宝珠半分、鬼瓦2個、平瓦104枚、棟瓦24枚、棟下瓦105枚、木の板1枚、ガラス一部、水晶（六角柱）が発見されました。



▲宝珠の近くに納められていたものと推測される水晶の六角柱。

茨城大学・茨城県建築士会・北茨城市による三者合同会議

7月7日、7月20日、8月22日、9月13日、11月2日の全5回開催

昭和38年に再建された流失前の六角堂は、たび重なる改修により、岡倉天心が明治38年に自ら設計し建築した当時の姿とは、だいぶ異なっていることが判明していました。

しかし、ここで問題となるのが、創建時の設計図や当時の資料などがまったくと言っていいほど残されていないことでした。



創建時の姿を目指すにあたっては、地域の特性などを鑑みた上で、証言・資料を収集し、時代考証、技術の検証をすることが要となります。

全5回に渡り合同会議が開催され、宮大工の棟梁や瓦製造者などの協力を仰ぎながら、茨城大学の再建チーム、茨城県建築士会、北茨城市の文化財担当者とともに六角堂再建計画をまとめ上げました。



津波により六角堂流失

平成23年
3月11日

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波によって、北茨城市五浦にある国登録有形文化財「五浦六角堂」が、土台部分だけを残して完全に流失してしまいました。

5月 9日

茨城大学の岡倉天心記念六角堂等復興基金設立

5月12日

五浦地区復興の五者協議

茨城県天心記念五浦美術館において、茨城大学、茨城県（天心記念五浦美術館）、北茨城市、財団法人日本ナショナルトラスト、天心偉績顕彰会の代表者による震災後初の意見交換会が開催されました。

6月 6日

第1回の海底調査

6月14日

第2回の海底調査

6月20日

第3回の海底調査

9月15日

第4回の海底調査

7月 7日

第1回茨城県建築士会と大学との再建合同打合せ会議開催

7月20日

第2回茨城県建築士会と大学との再建合同打合せ会議開催

8月22日

第3回茨城県建築士会と大学との再建合同打合せ会議開催

9月13日

第4回茨城県建築士会と大学との再建合同打合せ会議開催

11月 2日

第5回茨城県建築士会と大学との再建合同打合せ会議開催

11月15日

立木（原木）の伐採

11月18日

工事契約締結（松井リフォーム（株））

11月21日

起工式

平成24年

3月下旬

六角堂等竣工（予定）

「創建時に限りなく近い姿」の六角堂が、復興のシンボルとして五浦の海を目前に颯爽と蘇る予定です。

4月～10月
復興工事図面の作成

再建の基本方針

- (1) 六角堂は明治 38 年の創建当初の姿の復元を目指す。
- (2) 瓦は、昭和 38 年の改修工事で新しく葺き替えられたが、明治 38 年当時の棧瓦（8 寸幅）で復元する。
- (3) 昭和 38 年の改修で変更された南側の出窓は、記録等を検討して当初のものに戻す。
- (4) 昭和 38 年の改修で撤去された中央の六角形の炉を再現する。
- (5) 土台の分析から、当初の外観を復元する。
- (6) 窓ガラスは、当時の製法による再現を試みる。
- (7) 建物全体の彩色は、明治38年当時のベンガラ彩色を研究して実施する。
- (8) 土台の分析から、石垣は当初、茨城産の石灰岩の平詰めだったことが判明した。
- (9) 露盤の宝珠は創建当初のものと推定されるが、破損が激しいため 3D スキャンにより当初の形態を復元し、その後実寸模型を作成し、完成させる。



CG による再建イメージ

- 今後、構造を検討しながら、当初の外観を復元する。また、土台には免震用ゴムをかませる。
- 11月着工、平成 24 年 3 月の竣工を目指して、五浦地区の復興のシンボルとして再び、多くの方々に受け入れることを目指したい。
- 今回の大震災と津波を後世に伝えるために、海中捜索によって引き上げた品々や、復興までの記録を展示する復興記念館の建設も視野に入れている。



CG による再建イメージ



明治38年当時の六角堂

11月10日

立木（原木）の調査

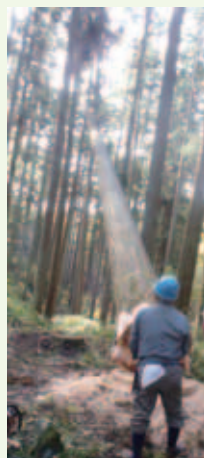


太郎杉
幹廻り 254cm
樹 高 43m
樹 齢 150年



11月15日

立木（原木）の伐採



六角堂再建起工式を挙行

11月21日

茨城大学五浦美術文化研究所六角堂の再建起工式を、流出跡地で行いました。

起工式には、茨城大学はじめ再建に全面協力した茨城県建築士会や設計、施工者ら関係者多数が参列し、復旧に向けた第一歩を踏み出しました。

今回再建する六角堂は、明治 38 年に岡倉天心が創建した当時に近い形で再建する方針で、平成 24 年 3 月末までの完成を目指しています。

続いて開かれた記念式典で池田学長は、「六角堂の再建が、茨城県や東日本の復興の象徴となることを祈る」と挨拶しました。

